

スイス学校便り

思考力、表現力、説得力が教育の基礎

米川 恵子



米川 恵子 / よねかわ・けいこ
1979年京都生まれ。1993年よりスイス、Zurich（チューリヒ）郊外のZumikon（ツミコン）市に在住し、現在Zurich州立Stadelhofen（シュタデルホーフェン）高校ラテン語科に在学中。

米川恵子さんは、1994年12月から1年間にわたりスイスから本誌に現地の医療事情をレポートしてくださいました。チューリヒ大学医学部脳神経外科主任教授米川泰弘先生の次女である。14歳の時にスイスに渡り現在高校に通う恵子さんが、学校での体験を綴ったお手紙をくださった。日本とは対極にあるように思われる授業の様子などが、高校生の目を通して生き生きと語られて興味深く、今回ご本人の許可を得てここに紹介させていただくことにした。

父の転任に伴いスイスにやってきてから今年で7年めになります。楽しくてたまらなかった日本での中学生活、言葉もわからない外国に移り住むことに不安を感じていた頃が、今では懐かしい思い出です。きょうは少しこちらの学校生活についてお知らせしたいと思い、ペンをとりました。

スイスに来て最初の2年間は英国系のインターナショナルスクールの中等部に通ったので、初めは片言だった私の英語も、だんだんと日常会話に支障がなくなり授業にもついていけるようになりました。世界各地から来ている友達と、熱心な先生たちに恵まれたこともあり、次第にこの学校も私にとって日本で通学していた同志社中学に負けない位楽しく居心地のよい所となってきました。そのまま学んでここで高校課程を修了することもできたのですが、同志社を去る時と同様の非常になごり惜しい思いを味わいながらも一大決心をしてこの学校とも別れを告げ、チューリヒ州立のギムナジウム（高校）を受験することにしました。現地の言葉（ドイツ語）を話したり、現地の友達を作り、現地の教育を体験したかったからです。現在はその高校の4年生です（スイスの高校はなんと4年半もあるのです）。

さてこちらのギムナジウムは5つの系統に分けられています。古代ギリシャ語及びラテン語が中心の古典科、ラテン語が最主要教科のラテン語科、自然科学教科が中心の理数科、語学（独、英、仏、伊、西語等）が主要教科の語学科、及び経済教科に重点がおかれる経済科です。私はその内、ラテン語科を選んだのですが、その理由はこの科の卒業者は、大学進学の際、制限なくどの学部でも専攻する自由があるからです。授業でシーザーの『ガリア戦記』やキケロの文章の訳に取り組むうちに、ラテン語はドイツ語だけでなく、フランス語、イタリア語等のたくさんのヨーロッパの言語の語源であるということ

がリアルに実感でき、学習に興味が出ました（当科ではフランス語、イタリア語も必修科目です）。また、ヨーロッパを旅行すると、古代ローマ帝国の影響の偉大さを物語る様に、由緒ある教会では必ずといってよい程ラテン語の文句が刻んであるのを目にします。現代においてはもう話されないが故に「死語」と呼ばれているラテン語ですが、実はヨーロッパの言語や文化の底流にかけがえのない大きな土台として今も生き続けていて、その奥深さを思い知らされます。

ところで、こちらの学校で、学習の際に最も求められるものは日本とは根本的に異なっています。例えば、最近のドイツ語の授業では「迷路」という題で3時間作文を書くという課題がありました。ある一つの物事をどれだけ多くの様々な観点から見るができるかが問われ、評価されるのです。歴史のテストでは、例えばある歴史上の人物の発言（教科書にも出ていない初めて目にする文章）を与えられ、「これはいつ誰がどのような状況のもとに述べたものか」、「歴史上にこれに似た状況があったか」等を自分の知識をもとに比較考察しながら書かなければならない問題があります。また、テストの点数だけでなく、授業中に自分の意見を発表する力と、その説得力が重視されます。どの科目でもペーパーテストの点数のみがそのまま成績になることはなく、必ず、どれだけその生徒が授業や討論に積極的に参加したかの点数も加味されます。その配分が先生によっては半分ずつの時もあり、生徒は授業中眠ってなどおられず、終始全身で注意を払ってチャンスを逃さず手を挙げなければなりません。日本の、静寂に包まれた授業風景とは対照的で、受け身ではためなものです。更に毎学期末には生徒一人一人の全教科の成績の平均点が計算され、もしそれが学校指定の基準を下回っている場合、その生徒は次学期から“恐怖の”試験期間（いわば執行猶予みたいなもの）に入ります。そして、次の学期も引き続

き成績が基準を下回ると、情け容赦なく留年または退学させられます。中にはその結果、卒業時に、入学時の半数近くに減っているクラスもあります。以上の例が物語る様に生徒に求められているもの、在学中に徹底してたたき込まれるものは知識の丸暗記ではなく、自分で考える力、そして自分の理論を的確に表現し、他人を説得する力です。

最後にスイスという国について少し書かせていただきたいと思います。スイスは永世中立国であり独自の歩みを大切にするため、EU（欧州連合）には現在のところ加盟していません。1999年からはEU加盟国内でユーロ通貨が導入され、スイスの経済的、政治的孤立が憂慮されています。国内には旧ユーゴスラビアやアルバニアからの難民が急増し、仕事のない難民が不満と貧困から起こす犯罪も比例して増えています。島国の日本と違い、複数の国と国境を接しているので外国人が多く、私はこの6年の間に、色々な民族の人と出会いました。母国が戦争中で帰りたくても帰れない難民、混血で自分のアイデンティティーがわからなくて悩む人、ブラジルで生まれ、スイス人の養子となり母国を知らずに育った人。私は来年高校を卒業しますが、人の幸せに少しでも貢献できる仕事につながる勉強を大学でしたいと思っています。

それでは、またお便りします。皆さまお元気で。